

平成 22 年 4 月 6 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19310152

研究課題名（和文） 近現代中国におけるリベラリズム思想の受容と展開

研究課題名（英文） The Chinese modern Liberalism: thoughts and history

研究代表者

村田 雄二郎（MURATA YUJIRO）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：70190923

研究代表者の専門分野：中国近代思想史

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：中国，リベラリズム，ナショナリズム，東洋史

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、海外の研究者とも連携しながら、西洋のリベラリズム思想が近代中国においてどのように受容され、20 世紀中国においてどのような展開をみせたのかを解明することである。

## 2. 研究の進捗状況

私たちは、1 で記した研究計画を実行するにあたって、下記（1）～（4）の研究手法を重視している。

（1）中国の伝統思想と西洋のリベラリズム思想の接点および関連性を探る。

（2）西洋のリベラリズム思想が受容される場であり、かつ展開される場でもある公共空間の実態を解明する。

（3）西洋のリベラリズム思想は経済・財産の自由と不可分であるため、中国における経済思想の変遷や実態経済の変化と結びつけながら西洋のリベラリズム思想の受容と展開過程を解明する。

（4）世界のなかの近現代中国という視角から西洋のリベラリズム思想の受容と展開過程を解明する。

また、こうした研究手法を活用して得られた成果は下記（1）～（3）の国際シンポジウムと（4）の特集号で公表されている。

（1）Living Texts: Rethinking China and the World in the Late Qing, Columbia University, 2007 年 12 月 13-14 日。

（2）「近代中国思想史上的自由主義」国際学術研究会、復旦大学、2008 年 9 月 14 日。

（3）近現代中国自由主義研究会、東京大学、2009 年 10 月 4 日。

（4）「特集号：近現代中国のリベラリズム思

想」『近きに在りて』54 号、2008 年。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。そう判断する理由は、2 で示したように、当初の研究計画に沿った成果を着実に得られているからである。

## 4. 今後の研究の推進方策

最終年度はこれまでの研究成果を総括し、論文集の刊行を目指す。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

水羽信男「1950 年代における『民族資産階級』について——中国民主建国会の反右派闘争から考える」『東洋史研究』67 巻 4 号、2009 年、98-122 頁、査読有

〔学会発表〕（計 1 件）

中村元哉「国民党党治下の自由論と国際政治観——張知本と《中華民国憲法草案》」、近現代中国自由主義研究会、東京大学、2009 年 10 月 4 日。

〔図書〕（計 2 件）

村田雄二郎ほか編『シリーズ 20 世紀中国史 1 巻』東京大学出版会、2009 年、232 頁  
久保亨ほか編『シリーズ 20 世紀中国史 3 巻』東京大学出版会、2009 年、230 頁

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕